

# 令和4年度学校自己評価システムシート(県立妻沼高等学校)

目指す学校像	母校を誇れる生徒を育てる学校
--------	----------------

重点目標	1 「学び直しから大学進学まで」を保障するため、分かる授業・伸ばす授業を実践する。 2 「礼儀、身だしなみ、時間厳守」を指導の基本として、思いやりの心と規範意識を醸成する。 3 体験活動やキャリア教育等とおして粘り強さを育て、一人一人の進路実現を図る。 4 地域と連携し、学校行事・生徒会活動・部活動等の活性化を図り、開かれた活力ある学校づくりを行う。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価						
年 度 目 標		実 施 日 令 和 5 年 2 月 7 日						
年 度 目 標		学 校 関 係 者 からの 意 見・要 望・評 価 等						
番号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	
1	<p>【現状】 学業にしっかりと取り組む生徒や生活習慣の確立された生徒などと課題を抱えた生徒との二極化が表れているが、学校全体としては落ち着いた学校の状況となっている。</p> <p>【課題】 ・生徒間や教員と意思伝達を含めたコミュニケーション力の向上を目指す。 ・提出物や課題など、決められたものにともしっかり対応する意識を高める。 ・コロナ禍における授業保障に対応し、基本方針を立て計画の実施を行う。</p>	<p>学び直しや学力の定着を目指した「カルティベートタイム」(CT)を充実させ、教育活動を計画的に実施するとともに、生徒への支援体制を継続した学校運営を行う。</p>	<p>①CTの充実・発展 ②「R80」の定着 ③学びの基礎診断の活用 ④授業時間の確保 ⑤安全管理・安全維持 ⑥提出物等への意識改革と取組 ⑦言語活動の充実</p>	<p>①CT研修会(年2回実施)を実施する。 C T委員会を開催する。(毎月) ②「R80」(アクティブラーニング記述学習)実施回数の増加を図る。 ③学びの基礎診断の実施、分析、活用を図る。 ④コロナ禍における年間行事計画へ対応する。 ⑤校内環境の整備と維持を図る。 ⑥提出物などへの対応と意識の醸成をする。 ⑦生徒の発表や発言を行う場の増加と意識改革を図る。</p>	<p>コロナ禍における感染拡大防止が継続する中、行事の内容について検討を重ね、学校運営を行った。 ①教員を対象に研修会を行った。1回目:4/11 CTの概要について 2回目:11/30 タブレット版公文体験研修 ②継続して実施している。例年とほぼ同じ回数であった。 ③学びの基礎診断は2回実施された。 ④年度当初に計画された行事について、感染防止対策を講じながら実施した。天候の影響で実施時期を変える行事(体育祭12/21)もあった。 ⑤定期的(定期)に安全点検を行い、学習環境を維持した。 ⑥提出については二極化している。成果に直結する材料としての意識改革が求められる。 ⑦各教員が生徒発言の場を設けるよう工夫した。</p>	B	<p>【課題】 ・「成績優良者、皆勤者」と「中途退学者、転学者」の二極化が顕著である。 ・1年生の長欠者対策(退・転学の増加)が必要である。 ・表現力、発信力(話す、書く)の不足が問題である。</p> <p>【改善策】 ・CT委員会の主導力を向上させ、一層の基礎基本の定着と学習意欲の向上を図る。 ・各生徒に一律に課題を課すのではなく、適した量や内容を提示できるように検討する。 ・生徒一人一人の状況を把握し、最適な指導ができるよう支援体制を再構築する。</p>	<p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <p>学習指導に関し、先生方はよく取り組んでいただいている。 ・カルティベートタイム(CT)は充実している。生徒たちは「学び直し」「学力の定着」に役立っているようだ。今後も、さらにとり組んでほしい。 ・時代の流れで、学校現場ではICTが進んでいる。さらに研究を進め、活用していただきたい。</p>
2	<p>【現状】 生活習慣の定着による皆勤者の増加が見られる。また、生徒指導の件数については減少傾向であるが、内容の変化について対応を求められている。学校全体としては落ち着いてきている。</p> <p>【課題】 ・予防的な生徒指導の継続と定着を行う。 ・支援体制を継続・充実させることによる生徒支援を行う。 ・外部専門支援員等との連携と活用を図る。</p>	<p>指導基本「礼儀、身だしなみ、時間厳守」について粘り強く継続的に指導し、生徒への定着を図る。 スクールカウンセラーや外部専門支援員等との連携を密にし、支援体制を充実させる。</p>	<p>①全教職員による共通理解の定着と指導の実践 ②生徒対象の各講習会を実施 ③生徒情報の共有化 ④外部専門員等との連携充実</p>	<p>①各教職員による「礼儀・身だしなみ・時間厳守」指導の徹底と共通理解を図る。 ①欠席・遅刻・早退数を減少させる。 ①生徒指導件数を減少させる。 ②生徒への教育伝達項目として、「非行防止教室」「交通安全教室」「ネットトラブル防止教室」等の教育活動の時間を確保し、意識改革を図る。 ②生徒アンケートにおける「母校となる妻沼高校を良くしたい」と思う生徒の割合を増加させる。 ②保護者アンケートにおける学校満足度を向上させる。 ③様々な生徒情報の共有化を行う。 ④外部専門支援員等との連携と活用の実施を行う。</p>	<p>学校全体の生活状況は良好といえる。担任と生徒はコミュニケーションを欠かさない。 ①生徒との良好な関係性を構築し、保護者の理解を得ながら継続した指導を展開した。 ①生徒の出席状況は改善していない。 ①生徒指導件数は減少した。(6件) ②各講習会を計画し、実施した。非行防止教室:6/23 交通安全教室:10/20 乗物乱用防止教室:1/13 ②「母校となる妻沼高校を良くしたい」と思う生徒の割合は87.1%(前年比+0.2%) ②保護者アンケートで「入学させて良かったか」の割合は、良かったが概ね96.3%(前年比+0.5%)また、失敗だったが0%となった。 ③学校支援員を含め、生徒情報は共有された。 ④学校支援員の活用が図られ、生徒支援が行われた。</p>	A	<p>【課題】 ・予防的指導の徹底 ・問題行動が生じる前に、早期に対策を講じ予防的な生徒指導ができるよう組織を構築する。 ・外部専門機関等との連携と連携するための教員の資質向上を図る。 ・中学校への情報提供と連携強化を図る。 ・外部専門家と連携した生徒指導体制の深化を図る。 ・外部専門家間連携支援を行う。</p> <p>【改善策】 ・将来的な展望と職業に対する情報提供の仕方を再考し、的確な指導が展開できるよう組織と計画を構築する。 ・外部専門家(就職支援アドバイザーやハローワーク職員等)の有効的な活用と面接指導を行う。 ・意欲をもって他者と競合することの意識付けを行う。</p>	<p>学校は落ち着いたようである。課題はあるが取組を進めてもらいたい。 ・「礼儀、身だしなみ、時間厳守」は社会人として必要である。指導の基本として継続して取り組んでいただきたい。 ・中途退学者や転学者などの増加が気になる。突然傾向が急変するとは思えず、意識が希薄になることが考えられる。 ・指導の成果はある。学校外で生徒の様子を拝見している。 ・生徒の欠席や遅刻の連絡について、改善や工夫が必要ではないか。</p>
3	<p>【現状】 学校全体でのキャリア教育の成果として、進路希望を概ね達成させることができている。これは、進路指導部と学年が連携した取り組みを行った成果である。</p> <p>【課題】 ・入学当初から、計画的なキャリア教育に取り組み、卒業時には進路希望達成を実現させる。 ・進路達成に向けて生徒の意識向上を図っていく。</p>	<p>すべての生徒の進路実現に向けて、将来の職業について展望を立てさせ、実現に向けた計画的な取り組みを展開させる。また、意識改革も行い、自身の進路について正対させるように指導する。</p>	<p>①進路希望調査・実態の把握 ②キャリア教育の計画と実践 ③進路追跡調査・過去のデータ分析と対策 ④外部関係組織等との協力・連携 ⑤進路報告会の充実</p>	<p>①②進路目標及び進路希望の調査を実施し、集約された結果について分析を行うとともに、学年など時機に合わせたキャリア教育や進路指導を計画し実践していく。 ②各学年による進路希望達成の学習活動指導を行う。 ③進路追跡調査を卒業生に対して行い、過去のデータとの比較を行うとともに、在籍生徒への指導について効果的な指導の対策を講じる。 ④外部関係組織等(熊谷市、商工会、ハローワーク等)やPTAとの協力、連携を深める。 ⑤3年生から在校生に向けて行う「進路報告会」を充実させる。</p>	<p>各学年において、学年相当の内容について計画を立て、段階的な指導ができるよう実践した。 ①②各学年において適切な進路指導を行った。1年:進路希望の把握を軸にした調査 2年:「職業を知る」調べ指導 3年:進路決定に向けて段階的具体的な指導 ③離職者は確認されていない。在校生の進路決定に向け、情報提供された。 ④就職支援アドバイザーにオンラインでの指導を依頼したり、ハローワーク職員による面接指導を実施した。校内での指導の充実が図られた。 ⑤進路報告会は1,2年生の学びの場にとどまらず、進路決定のための情報を収集する良い機会となった。</p>	B	<p>【課題】 ・就職未決定生徒の指導改善が必要である。 ・進路希望の的確な選定と意欲を持った取り組み姿勢の構築が望まれる。</p> <p>【改善策】 ・将来的な展望と職業に対する情報提供の仕方を再考し、的確な指導が展開できるよう組織と計画を構築する。 ・外部専門家(就職支援アドバイザーやハローワーク職員等)の有効的な活用と面接指導を行う。 ・意欲をもって他者と競合することの意識付けを行う。</p>	<p>校内でのキャリア教育について拝見した。先生方の取組に感謝している。 ・学校でたくさんのごことを学んでいる。経験値を生かした行動をとってもらえるように指導していただきたい。 ・キャリア教育の基本は「目的を持たせること」である。</p>
4	<p>【現状】 各部活動とも、コロナ禍における制約があるものの、現状を把握しながら活発に部活動を行っている。また、地域との連携など希薄になっている交流活動についても順次回復させる。</p> <p>【課題】 ・部活動へのさらなる加入と、目標設定による意欲の向上を目指す。 ・情報提供を適宜行い、情報発信に努めていく。</p>	<p>学校行事、部活動を通じて、心身ともに豊かな人間性の向上と学校の活性化について取り組んでいく。また、学校情報を適宜発信し、開かれた学校づくりに取り組む。</p>	<p>①部活動の活性化 ②PTA・後援会と連携した学校行事の実施 ③学校の情報発信 ④生徒募集の充実 ⑤近隣との地域交流</p>	<p>①部活動加入率の上昇、大会への参加、入賞回数の増加を目指す。 ①PTA・後援会と連携した学校行事を実施、充実させる。 ③学校から適宜情報発信し、開かれた学校づくりに取り組む。 ④工夫した学校説明会を行い、受験生の確保に努める。 ⑤近隣小学校や中学校との連携について、コロナ禍の状況を踏まえ適切に対応する。</p>	<p>コロナ禍で活動の範囲が制限される中、活動内容の拡充に向けて工夫を凝らしながら活動した。 ①学校活性化に向けて、入学年度の加入の奨励を図った。 ③学校行事の実施にあたり、情報提供としてこまめにHPの更新を行った。 ④参加者定数のある説明会だが、学校の様子を提供できるような内容を工夫した。(学校説明会:8/20 11/26 1/14 ショートタイム説明会:12/6 1/18 計5回) ⑤新型コロナウイルス対策を講じながら、長井小学校との交流を実施した。また、ボランティア部も参加した。(11/10実施)</p>	A	<p>【課題】 ・学校の情報発信の方法を検討する。 ・地域からの学校評価を向上させる。 ・活気ある学校づくりを推進する。</p> <p>【対応策】 ・HPでの情報発信にとどまらず、効果的な情報提供の方法を模索する。 ・地元からの学校評価をリサーチする。 ・生徒参加による学校説明会の運営を図る。 ・部活動参加者の増加と活性化の工夫をする。</p>	<p>明るい学校としての活動状況を確認させていただいた。 ・部活動の指導など、細部にわたり取り組んでいただいている。今後も継続していただきたい。 ・部活動を行わない生徒の原因が気になる。こちらもケアがさらに必要と感じている。</p>